

経営の重点と具体的な施策

◇ 考える子

【重点】☆自分の言葉で語り、聴き合える**学級集団**づくり

- ・自己選択や自己決定ができる学級経営や場（行事等）を工夫する。
- ・「わかった」「できた」「なるほど」が聴こえる授業をめざす。
- ・言語活動の充実を図る。

めざすこども像	具体的な施策	評価	担当
① 主体的に 学ぼうとする子 【研究部】	○授業づくり ・課題（めあて）設定の工夫 ・ふりかえりによる学びの自覚 ○基礎・基本の定着 ・漢字会、計算会の実施 ・学習ドリルの利活用	◇授業の様子（適宜） ◇アンケートによるふり り返り（各学期）	ホ ー ム ペ ー ジ に は 氏 名 を 掲 載 し て お り ま せ ん。
② 自分の考えをも ち表現する子 【研究部】	○話す力・聴く力の向上 ・教室掲示の見える化 ○対話力の向上 ・場の設定（授業、朝の会、帰りの会、おし ゃべりタイム、異学年への発表など） ・形態の工夫 （ペア、グループ、全体、机の配置など） ○語彙力の向上 ・言葉の意味調べ（国語辞典の活用） ・各教科独自の用語の使用	◇授業の様子（適宜） ◇アンケート（年度当 初と終わりでの比較）	
③ 学びを深め豊か にする子 【研究部】	○自学ノートの評価（3年生以上） ・ノート展示（各学期・通年評価） ○図書館活用教育の充実 ・読書タイム（月に1回） ・調べ学習での資料活用 ・おすすめ本の紹介 ○新聞活用教育の充実 ・新聞タイム（学期に1回） ・NIE チャレンジ校（4年目） ○ICTの効果的な活用 ・活用実践例のミニ研修（学期に1回）	◇ノートチェック （日常、学期末、年度末） ◇自学年間大賞の表彰 ◇完読賞の表彰（随時） ◇アンケートによるふ り返り（各学期） ◇アンケート（年度当 初と終わりでの比較）	

◇ やさしい子

【重点】☆違いを認め合い、安心して学べる**学年（部）集団**づくり

- ・自分を大切に、他者を思いやる心を育む学年（部）経営の共通理解を図る。
- ・一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援が速やかに開始できる仕組みを構築する。
- ・児童理解力の向上を図る。

めざすこども像	具体的な施策	評価	担当
① 自らを見つめ成 長しようとする 子 【生徒指導部】	○あいさつ ・教職員の積極的なモデル ・児童運営委員会によるA（あいさつ）運動 の励行 ○キャリア教育の推進 ・キャリアパスポートの活用	◇学校評価（年末） ◇児童運営委員会のふ り返り ◇学校評価（年末） ◇キャリアパスポート	

	(行事ごとの記録) ・学園キャリア教育年間計画の共通理解	への記入の見取り	
② 相手をおもいや り助け合う子 【生徒指導部】	○児童理解 ・職員会議、職員終礼に情報交換（随時） ・tetoru の情報確認（毎朝） ・全校教育相談週間の実施（年2回） ・SSW、SC、校内教育支援センター支援 員等の活用 ・Q-U アンケート研修の実施 ○異学年集団の積極的な活用 ・そうじ、ちゅうオリンピック、運動会など	◇学校評価（年末） ◇定期的な情報交換の 時間設定（随時） ◇学校生活アンケート （年末） ◇SSW、SC、校内教 育支援センター支援員 との打ち合わせ ◇研修の実施（学期に 1回） ◇Q-U アンケート結果 （8月、2月） ◇各行事のふり返り	ホ ー ム ペ ー ジ に は 氏 名 を 掲 載 し て お り ま せ ん。
③ ちがいを認め大 切にする子 【生徒指導部】	○人権教育の充実 ・呼び捨て、「おまえ」等の言い方の排除 ・人権教育の全校体制での実施（1月） ○いじめ防止への努力 ・いじめ防止基本方針への理解・運用 ・いじめ防止に向けての研修の実施 ・報連相シートによる共通理解 ○特別支援教育の理解推進 ・特別支援学級の教育の充実 ・通級による指導の理解 ○不登校・不登校傾向児童の対応 ・校内体制による多様な学びの場の保証	◇学校評価（年末） ◇学校評価（年末） ◇ケース会の実施 ◇学校評価（年末） ◇定期的な情報交換	

◇ がんばる子

【重点】☆異学年（年齢）を活かした集団づくり

- ・いろいろな学年と関わる経験を積む中で、各学年に応じた自覚を醸成する。
- ・かしこい体づくりの原点に学び、全職員が共通の意識をもって取り組む。
- ・AKSZの意識徹底を図る。

めざすこども像	具体的な施策	評価	担当
① 見通しをもち粘 り強く取り組む 子 【体づくり部】	○中央っ子エクササイズ ・各運動の目的と効果の共通理解(教職員及 び児童) ・掃除後に音楽に合わせて全校実施(火・木・ 金) ・運動会での披露(片足バランス) ○チャレンジカード(1～3年) ・体育の授業での計画的な実施 ・達成児童及び上学年児童による「認定員」 制度を導入。(認定バッジの作成)	◇担任アンケート(1 2月) ◇1・2年生人物画の 比較(5月と2月) ◇運動会(片足バラ ンス)の様子 ◇チャレンジカード表 彰・集計(各学期末) ◇学校評価	ホ ー ム ペ ー ジ に は 氏 名 を 掲 載 し て お り ま せ ん。
② 気持ちのよいく らしをつくりだ す子	○児童の委員会との連動 ・A(あいさつ) K(靴そろえ) Z(時間を 守る) S(整理整頓)の推進	◇学校評価(年末) ◇委員会のふり返り (前期・後期)	

【生徒指導部】	○S（そうじ）をとoshした意識の醸成 ・縦割り班の活用（上学年の自覚促進） ・教職員間の共通理解 ○安心・安全な学校環境への改善 ・児童による安全点検の実施（年1回）	◇そうじ反省カード（学期ごと） ◇安全点検カードへの記入	ホームページには氏名を掲載しておりません。
③ いろいろなことに挑戦しようとする子 【体づくり部】	○ちゅうオリンピック（6月・10月） ・運動の目的と期待できる効果の共通理解 ・様々な運動への意欲喚起 ・縦割り班の活性化 ○中央っ子サーキット（1～2年生） ・体育の授業開始時の計画的実施（内容や量は単元によって変更可） ・運動会での披露（ブリッジ）	◇ふりかえりカード（7月・10月） ◇活動の様子 ◇運動会（ブリッジ）の様子	

＜めざす学校像の達成に向けて＞

◇こども・家庭・地域から信頼される学校

【重点】☆持続可能な PTA・地域との集団づくり

- ・連携体制についての現状を把握するため、5年間の活動を整理する。
- ・持続できる協力体制を視点に、今年度の各活動のふりかえりをする。
- ・地域に育つ中央っ子の開かれた環境と安心・安全な環境について各活動の点検をする。

	具体的な施策	評価	担当
① 幼小中およびまつえ天神川学園の連携 【教務部】	○異学年等による体験的な活動の実施 ・生活科等の学習を通した幼小交流（1年） ・中学校体験入学（6年） ・雑賀小との合同学習（3年） ・近隣幼保こども園の体験活動 ○まつえ天神川学園合同研究会での連携 ・研究の視点を明確化した会の実施および教職員の情報交換	◇児童のふり返し、小中一貫アンケート（年度末） ◇学校評価（年末）	ホームページには氏名を掲載しておりません。
② 地域のひと・もの・ことを生かした学校運営 【教務部・管理職】	○地域学校協働活動推進員との連携 ・地域ボランティア等による活動支援（ふさと教育、教科実技支援、体験的活動等） ○学校運営協議会制度を活かした取組 ・情報交換や情報共有、及び意見交換 ○教職員の働き方改革の推進 ・校内運営等の再点検 ・不易と流行の視点をもった職場改善	◇学校評価（年末） ◇学校運営協議会での協議（年3回） ◇時間外勤務時間目標：年間360時間以内、月平均45時間以内、年間年休取10日以上	
③ 積極的な情報発信と双方向の情報交換 【教務部・管理職】	○互いの職務や立場を尊重できる職場環境づくり ・あいことばの共有「一人一人のよさが発揮できる集団づくり」 ・計画的な企画会の実施 ・教職員一人一人との積極的な対話 ○教育活動に関わる情報発信 ・学級・学校・学園だより、ホームページの有効活用 ○各種会合における情報交換 ・教育後援会、学園教育推進会議、PTAの会合等におき、情報交換の場の設定	◇学校評価（年末） ◇学校評価（年末） ◇各種会合での意見交換	

